

# はばプラⅡ 道徳科 基本的な流れ

## 学びを深める指導・支援の重要ポイント

### 【問題意識をもつ】

○道徳的価値と自分の経験のずれ、教材の主人公の行為と自分の考えのずれなどを把握させる。

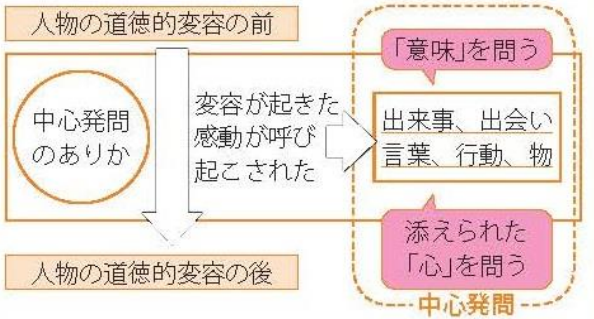
### 【めあての設定】

○資料を読み考える必要性が増すように、内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかったりするものが増える。  
 <例>  
 ◆本当の友情とはどういうことだろうか？  
 ◆親切にすることが大切なのはなぜだろうか？

### 【中心発問について】

○中心発問に求めること  
 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出すこと。

○中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。  
 <教材>



<例>  
 ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろうか。」  
 ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろうか。」

### 【補助発問について】

○児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。  
 <例>  
 ◆常識や当たり前と考えていることに対する問い直し「本当に?」「それでいいのかな?」  
 ◆きれいでとて終わりそうな発言に対するゆさぶり「難しくないの?」「できるかな?」

※展開の3や4においては、多様な考えを比較できるように、板書等で考えを可視化する。

## 基本的な流れ

導入

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。  
 ●本時で扱う道徳的価値に関わる資料（アンケート結果、視聴覚教材等）を提示したり、話題（経験も含む）にしたりして気付きを共有させる。  
 ●児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。

### 【めあて】

展開

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。  
 ●教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。
- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。
- 多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。
- 中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。



- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。  
 ●学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。  
 ●児童生徒に考えたことを発表するよう促す。  
 ●発表された様々な考えを受容する。

終末

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。  
 ●本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。

### 【振り返り】

## 個別最適な学びに関わる学習活動

## 協働的な学びに関わる学習活動

### 1人1台端末の活用

<例>  
 ・道徳的価値に関わるニュースやドキュメンタリーなどの動画資料を視聴する。  
 ・新聞記事などを拡大表示する。  
 ・道徳的な課題を自分自身の問題として考えさせるために、アンケート結果をグラフ化するなどして可視化する。

### 【考えの共有】

○個々の考えを端末に入力し、共有する。  
 ○端末で他者の考えを知り、議論を通して道徳的価値を多面的・多角的に考える。  
 →閲覧した情報から新たな気付きを得られる。  
 →短時間で全員の考えを共有でき、視認性に優れる。

<留意事項>  
 ・画面ばかりに気をとられないよう、話し合う態度に留意する。  
 例) 閲覧する時間と話し合う時間を区別する。

### 【考えの整理・比較】

○端末に入力した個々の考えを基に話し合う。  
 ○端末等を活用して、グループ内の意見の書き込む。  
 →焦点となっている事象や道徳的価値について多面的・多角的に考えられる。

<留意事項>  
 ・単に情報機器の使い方、危険の回避の方法等に主眼を置くのではないことに留意する。

### 【考えの整理・共有】

○議論を通して道徳的価値を理解した後、改めて自己を見つめ整理し、端末に自己の生き方についての考えを表記する。  
 →人前で話すことが苦手な児童生徒も考えを示すことができる。

### 【情報モラルに関する指導】

○情報モラルに関わる題材を生かして話し合いを深める。  
 ○コンピュータによる疑似体験を取り入れる。  
 →情報モラルに関して児童生徒が考えを深められるようにする。

### 【振り返りの蓄積】

○端末等へ振り返りの内容を記録する。  
 →自己の成長の確認ができる。

## 教師の指導・支援

### 大型提示装置・教師用端末の活用

・大型提示装置等で資料を提示する  
 ・アンケート結果を提示する。

<留意事項>  
 ・掲示したい部分に着目させ、焦点化を図る。

・大型提示装置等で読み物教材のあらすじやポイントとなる場面を提示する。

・教師用端末等に送信され個々の考えを大型提示装置等で一覧で表示する。

・端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する。

・意図的指名で児童生徒の考えを全体で紹介する。

・大型提示装置等を活用し、導入時に使用した映像資料、アンケート結果、児童生徒の考え、ワークシート等の拡大画像を提示